ＳＡＮとの邂逅

７００年後の未来から来た存在

【第１部　私たちはひとつである】　２０１１年１２月２９日撮影

◆ 人生に設定されたチャレンジ
◆ 喜怒哀楽と愛のエネルギー
◆ 引きこもりの象徴
◆ 母と娘の課題
◆ ひとつである、を知る地球
◆ 距離を取っている人を、癒す
◆ シンプルに、思う行動をとること

【第２部　ＳＡＮとの邂逅】　２０１１年１２月３０日撮影

◆ 準備と導入
◆ チャネルに前里光秀を選んだ理由
◆ チャネリング能力を上げる方法
◆ シドニー上空に現れたＵＦＯ
◆ ２０年後の未来と７００年後の未来
◆ オープンコンタクトが実現する日
◆ フルトランスチャネリング終了後

こちらは、２０１１年１２月２９日～２０１２年１月２日開催『フルトランス ver.2012』にて撮影した動画を文字にしたものです。
第１部は参加されたお客様とのチャネリング会で、第２部はスタッフのみでのチャネリング会です。

第１部

私たちはひとつである

２０１１年１２月２９日撮影

前里　はい。では深呼吸をして場を合わせながらやっていきます。今までのチャネリング会と同じようにやっていきます。目を閉じて深く深呼吸をして、2～3分くらいして「どうぞ」と言ったら(半円になるお客様の端を指して)こちらから質問をしてください。

順番をとばす場合は「とばします」と言って、隣の方が質問をはじめてください。質問をするときに名前を言ってくださいね。だからといって名前で呼ぶかはわからないですけど。

たとえば誰かの相談をするときは、その方の名前を言ってから相談してください。

Cさん　質問して返ってきたものをメモしている暇はないですよね？

前里　いや、あると思いますよ。「なにをやってはいけない」ということはないので。普通にやって質問をして、それをずっとしゃべるという場面があるかもしれないので、そうなったときは別にメモをとっていただいても。

映像を2か所で撮っているので、それは両方から確認できますから、そこに書きながら、そこで出た質問をまた質問してください。1人あたりどのくらいのもち時間がある、とかはちょっとわからないんですが…ある程度終わったら「終わり」って言っていただくかたちになると思うので、そのへんは大丈夫だと思います。

Cさん　わかりました。

前里　(前里が準備に入り、呼吸がだんだん大きくなっていく…)

（…7分経過…）

（次第に呼吸が落ち着いていくと、すでに「存在」と入れ替わっていることに気づく）

存在　はい…。

◆　人生に設定されたチャレンジ　◆

Aさん　Aです。

最近気になっていることで、母の体調のことを質問したいと思います。

存在　はい。

Aさん　母の名前は〇〇〇〇です。

2～3年前に彼女は頚椎を痛めたことがあります。最近また少し痛みがあるようなんですが、それに対して彼女ができること、それから私ができることがあれば教えてください。

私は今ヒーラーとしても働きはじめていますが、彼女はそういう力を信じていない。懐疑的な態度をとっているので、私のほうからなにかできることがあれば教えていただければと思います。

存在　お名前をもう一度お願いします。

Aさん　はい。私の、ですか？

存在　いえ。

Aさん　あ、はい。〇〇〇〇です。

存在　……。

（リーディング中）

存在　そのお母さんの状態を見て、あなたはどう思いますか？

Aさん　今、父が死んでから数ヶ月が経っていて、孤立している状態だと思います。

存在　病気に対して、です。

Aさん　あぁ、病気に対して…恐怖をもっていると思います。

存在　その期間というのはどのくらいですか？

Aさん　期間というのは…この間、再発しそうになったのが…2ヶ月くらい前なのですが、それはもとに戻りました。ですが、また再発するのを恐れていると思います。

存在　……。

（リーディング中）

存在　お父さんのお名前を教えてください。

Aさん　はい。〇〇〇〇です。

存在　……。

（リーディング中）

存在　あなたのお母さんは脳に問題があります。その部分を表に出さないために、今の部分を表面に出しているところがあります。

そして、これがなにを意味しているかというと、その脳の中にある部分というのは本人の「思考の癖」「表現」の部分を表していて、その部分を本人の「観念」「チャレンジ」としてもっています。

しかし、その部分を本人が拒絶し続けているところがあり、「対面する」ということを拒否している中で今の部位を発症しているにすぎません。

なのでその部分を終わらせるということが、すべてクリアするというわけではないです。

Aさん　…。

存在　一番の近道として伝えられることは、「本人の思考の部分で偏ったものの見方をしている」ところがあります。

その部分は脳の血液、神経、大脳…。

大脳の前面の大脳辺縁系という部分に、障害ではありませんが少し問題が起こる可能性があるものを抱えています。

「その部分が表に出ると、少し本人の中でもっている恐怖心というのが表に出てくる」ように設定をされているところがあります。

なので、その部分を出さないようにするのが…。

（リーディング中）

「大脳に関してチャレンジの課題の設定」があるので、その部分に関してはこれ以上お伝えすることが許されていません。

Aさん　はい。

存在　頚椎の問題に関していうと、冷えから来ているところもあります。

今すぐにその部分を抑えるということであれば、「足元にお湯を張って、足・下半身の部分を重点的に温める」と、ものすごく症状が抑えられるという情報があります。

その部分をお伝えしていただければ、あなた自身がやれることとしてもすごく立派なサポートになるはずです。

Aさん　先ほどの大脳辺縁系の話ですけれども、その恐怖心は死の恐怖ですか？

存在　いえ、違います。

Aさん　違いますか。

病気に対する恐怖？

存在　ではなくて、「自分の観念の部分を見ていくというチャレンジ」がそこに入っています。

Aさん　はい。

それは彼女が「自分でしなければいけない」というチャレンジですか？

存在　すべてではありませんが、これ以上細かくお伝えするということは、あなた自身がその情報を彼女にもたらした場合に起こる、そのさらに下の階層に問題をもっていくという可能性があります。

Aさん　はい、はい。

存在　そうすることによって、その問題が表に出にくくなります。

Aさん　はい。

存在　もちろん本人の選択ではありますが、それをサポートするという意味でいうと、「伝えない」ということも協力の1つでもあります。

Aさん　はい。

存在　ただし…。

あなたの状態、あなたの立場から彼女にサポートするというときに、さっきお伝えしたものをやることによって、本人の気持ちの緩みが出てきます。

Aさん　はい。

私のサポートは、その冷えを治すというサポートですね？

存在　はい。

Ａさん　わかりました。

彼女はその恐怖心を出したほうがいいんですね？

存在　というわけではないです。

Ａさん　ではない…。

存在　はい。

恐怖心というものはすべて出すものではなくて、本人が恐怖心じゃないものとして観念を貼りかえたときに、別の種類にかわっていきます。

Ａさん　…。

存在　それが先ほどお伝えしたチャレンジという内容です。

Ａさん　あぁ、はい。

では彼女が話したかったら、それを聞くということはサポートになりますか？

存在　なんの話ですか？

Ａさん　あ、その恐怖心の…そこの話です。

存在　話の中で「あなたは恐怖心がありますか？」という質問をするということに対しての答え、ということですか？

Ａさん　えーっと…「その質問はしないほうがいい」ということでしたので、「彼女とコミュニケーションをとる」ということが…。

今あまりとっていないので、「彼女とコミュニケーションをとること」はサポートになりますか？

存在　はい。

その中であなた自身のハイヤーセルフを通して、彼女のハイヤーセルフに情報を送るということができます。

Ａさん　はい。

存在　それは今あなた自身が知っているこの情報をもって伝える…。

「伝える」というのは言葉としてではなくて、思いとして情報を届けるということをしたときに、本人の中でその「問題意識」「チャレンジ」が表に出てくる可能性があります。

Aさん　はい。

存在　それは本人が決めます。

Aさん　はい。

存在　ですが、あなた自身ができることとして、その可能性をもって接していくことによって必ずプラスに作用するはずです。

Aさん　はい。

存在　ですが、「相手自身の選択がどのように方向性をもっていくのか」というのは、本人が決めることですので、そこにあなた自身が責任をもつというようなことはできません。

Aさん　はい、わかりました。

彼女はいつも黒い服を着ているんですけども、それがとても気になっているんですが…。それはなにかアドバイスすることはできませんか？

存在　……。

（リーディング中）

存在　色に対してのイメージというのは、あなた自身の…彼女のもっている色に対しての観念というものも、彼女自身のものです。

Aさん　はい。

存在　わかりますか？

Aさん　はい、わかります。違うということですね。

彼女の自由に任せればいいということになりますね。

存在　はい。

Aさん　はい、わかりました。

存在　はい。

Aさん　ありがとうございました。

◆　喜怒哀楽と愛のエネルギー　◆

存在　Ｙです、お願いします。

人間関係の中で、人とコミュニケーションをとる上で僕はもっと素直に自分の感情を表現したいと思います。

人から言われたのは、僕自身は顕在意識では「怒り」とかは感じていないんですが、「無意識で僕が怒りを感じている」ということを人から言われまして。

それが顕在意識では気づいていない状態で、それが「あまりいい状態ではない」ということの指摘を受けまして、そういう潜在意識・無意識での感情というか、「怒り」とか「喜怒哀楽」というのをもう少し意識して、それを表現していきたいと思っています。

「そのためにはどうしたらいいか」というのを聞きたいです。

存在　……。

（リーディング中）

存在　「喜怒哀楽」というものに関して、誰かに指摘をされて、あなたの中で「喜怒哀楽がある」ということが邪魔になっているということ

ですか？

Yさん　邪魔ではないです。邪魔ではなく、むしろ顕在意識でそれを意識して、そして人に対して表現したいです。

存在　「喜怒哀楽の出し方を知りたい」ということですか？

Yさん　…はい。

特に「怒り」とか「悲しみ」とか、ネガティブな表現方法というか、そういうものを「悪いもの」だとして「表に出さない」と自分で認識しているんですけど、「それも出していっていいんだ」ということを頭では理解しているんですけども、実際、表現していない。

それは「自分で自分に制限をかけているのかな」と思いまして。そういう「喜怒哀楽」の「怒り」であったり、「悲しむ」ことも表現しようと思うので。

ただ、それが本当に意識の上で出てこない、あまり自分で感じてないので、ちゃんとそれを認識して表現したいと思っています。その方法がわからないです。

存在　……。

（リーディング中）

存在　すべての人に言える情報として、「自分自身の場所にいる」ということを強制的に忘れてしまおうとした場合に、「自分の感情がなにを

感じているのかすらわからない」という状態をつくる人もいます。

あなた方の惑星の人間、惑星の中にいるすべてではありませんが、特に…

（リーディング中）

…文明・文化の進んだ地域・国の人たちの中には「思いを出せない」というふうな観念をもっている方が割合的に多く存在しています。

Yさん はい。

存在 しかし、そのもともともっている「喜怒哀楽」というエネルギーは、もともとは「愛というエネルギーと同一のもの」であり、出口が一緒、入り口が一緒の状態であります。

そのエネルギー、1つのエネルギーを「その惑星に生まれたときの観念によって色分けをしている」という仕組みがあります。

それは潜在意識の中で、あなた方惑星の集合意識の中で、そのようにしたほうが分かりやすい…もしくは困難にぶつかったときの対応策として色分けされているほうが…認識、傷つかないという状態…

（リーディング中）

…これまでの長い歴史の中で、その経験をしてきた中で、全体の意識の中で都合的にその仕組みをつくってきたところがあります。

（長い沈黙）

あなたの潜在意識の中で先ほどの質問は解決していますが、理解できますか？

Yさん　えっと…「怒り」の感情とかっていうのを「表現しなくてもいい」というように認識したんですが。それは僕にとって不都合にはならないですか？

存在　お伝えしている意味としては、「喜怒哀楽」というのはもともと愛のエネルギーであり、それが便宜上、都合上、地球の集合意識の中で困難にぶつかったときにクリアしやすいように色分けをしてある。

その意味というのは、「喜怒哀楽」を「どちらを出しても問題がない」という理解に至るかどうかという問題があります。

あなたの中で「愛を行っている」ということを理解した上であれば、どの感情を選択しても、それは「あなたが抱えているものを、まわりが受け取ってくれる」という前提の中に入っているということです。

Yさん　よくわかりました。

◆　引きこもりの象徴　◆

存在　次の方どうぞ。

Cさん　Cです、よろしくお願いします。

存在　はい。

Cさん　お仕事で「まいサポート」という、引きこもりの方をサポートするお仕事をはじめたんですが、そこで「引きこもりの象徴」がなんなのかを知りたいので、教えてもらえますか？

存在　「引きこもりの状態」が単純に表現していることというのは「意識の圧縮」です。

もちろん、その1つのみではありませんが、自分自身がもっている意識というものを限定的に見る場合、「意識の圧縮」ということが起こります。

あくまで「限定的に見ている場合」というのが前提に入っています。

ということはどういうことなのかというと、まわりの中で「あなたの意識、あなたの存在自体が限定されたものである」ということを教わったときに、その方の選択によってその中に入れることをした場合に、「意識の圧縮ということを本人の意思の中で決定する」ことができます。

Cさん　はい。

存在　そしてその「意識の圧縮をしている」「その状態をもっている」ことが「すべて悪い」ということではありません。

「意識の圧縮」を体験している中で、「意識の圧縮」を経験している中で本人が創造力をもち、なにを行うか。

「限定された世界の中にいてなにができるのかということを見せる」という役割ももっています。

Cさん　はい。

存在　しかし、それはその選択をしたときのみに限ります。

なので「意識の圧縮」のかたちとしてそのような表現をしていますが、本人の選択としては、ただのチャレンジとして…。

「意識の圧縮の中に入り、その中でいかに行動していけるのかということを、まわりの方に伝えているメッセンジャーの役割」をもっている方も存在します。

例えると、「飛行機のパイロット」と同じことをやっているだけにすぎません。

Cさん　もうちょっと詳しく教えてもらえますか？

存在　限定された空間の中に状態としておかれているパイロットが、多くの人を乗せて、あなた方の惑星でされている「空間という制限の中を動き回る」という、大きな動きをとっているのもパイロットの役割です。

その中で、限定された中でいかに動けるのか。いかにその中でも、「制限をもっている中でも創造的に動くことができるのかということを教えている」という役割、見地から見ていくと同じ状態にすぎません。

Cさん　…その引きこもりの方のサポートをしていくにあたって、その圧縮を広げていくことをお仕事にしていくんですが…。どんなことを伝えればきっかけに…引きこもりをやめる状態のきっかけになるのか。閉ざした心を開いてそのきっかけをつくるアドバイスを…。

存在　まず先に必要なのが、先ほどお伝えしたように、「パイロットと同じ役割をもっている」ということは、「引きこもりの状態」であったとしても、本人の意思によっては「常に動いている」「動ける状態にある」ということを理解してください。

そして、「心を閉ざす」という表現がありましたが、「心を閉ざす」ということはできません。それが証拠に本人も、その状態にある本人も日々、心の中で「苦しい」「悲しい」、いろんな感情を感じているはずです。

Cさん　…。

存在　「心を閉ざしている状態」は、「その感情すら感じることができない」ことを指します。

そしてこの話を、この状態、その知識を伝えることによって、本人の中で「閉ざすことができない前提の上に立った中で、それを行っている」と理解させる必要があります。

そしてそのサポートをする方は、本人が閉ざしているという話・状態があったとしても、「そうではない状態の上に立った役割」として、そういう表現をとっているということを理解することができます。

「その理解をして対面する」ということが相手の心にとって、相手の「体が動かない」「心が動かない」という思い込みの中に立っている方にとっての大きなサポートになっていきます。

Cさん　はい。

存在　質問として、その方に会ったときに…。

その方が目標としていた、目標としているもの、なりたい自分、行きたい場所、すべての行為が、「やりたいことがあるのかどうか」を質問してみてください。

Cさん　はい。

存在　その際に「やりたいことがない」場合でも、すべての選択の中において「やりたくない」と言っているにすぎません。

Cさん　はい。

存在　「やりたいことがない」という前提に立っているのは、すべて選択をしてみた中で「やりたくない」、もしくは「やりたいことがない」ということも同じことです。

「すべて知っている前提として、やりたいことがないと言っている状態にある」ということを理解している方がいるだけで、本人の気持ちの緩みというものに影響を与えます。

わかりますか？

Cさん　「やりたいことがある」とか「ない」とかっていうよりも、「それをわかってあげる」ということですか？

存在　「やりたいことがある」、それも選択の中の１つでしかありません。「やりたいことがない」ということも、その方がいろんな状態、エネルギーを感じた中で「ない」という選択を、その瞬間のみはしているにすぎません。

ということは「すべての状態を知っている」という状態でもあります。

Cさん　あ、はい。

存在　その中で言えることは、「常に動的である」という理解が必要だということです。

Cさん　はい。

存在　「やる」「やらない」、「動きの前に常に選択をしている存在である」ということを理解していくということが、その方の「創造性を前に押し出す」ということの力になるはずです。

Cさん　…はい、わかりました。

存在　次の方どうぞ。

◆　母と娘の課題　◆

Eさん　Eです、よろしくお願いします。

私が相談したいのは、私の母についてです。母の名前は〇〇〇〇といいます。

私の母は、私が生まれる前なのでもう何十年も前なんですけども、とあるアクシデントで「匂いがわからなくなった」ことに気づいて、何十年も前に気づいて、それ以来ずっと「香りだとか匂いの感覚っていうのがわからない」という状態が続いています。

それが、もともとは匂いがわかる状態で生まれてきながら、あるときを境にその感覚がなくなっていった。それが、「なにがきっかけでそうなったのか」というのを知りたいです。

いろんな病院に行ったんですけども、「直接的な原因がわからない」と言われています。

まずはその原因を知りたいです。

存在　……。

（リーディング中）

存在　あなたのお母さんは、そのチャレンジを今はどうとらえているんでか？

Eさん　もう仕方がないものとして受け入れながらも…まわりの人たちの会話で匂いに関することとか、香りに関する話題が出たときに寂しそうにみえます。

存在　……。

（リーディング中）

存在　あなたのお母さんが探しているのは入り口ですか？
出口ですか？

Eさん　出口だと思います。

存在　……。

（リーディング中）

存在　この情報を知ることが「お母さんのプラスになる」「マイナスになる」、それは彼女自身が決めることですが、彼女の中の卵巣の中に原因があります。

（リーディング中）

…あなたのお母さんの中には「男性に対しての見方」に特徴があります。

今の症状の中に象徴されているのは、「まわりの男性に対しての見方の強弱」「本人の中で決定された見方に対しての象徴」として、今の症状を体験している…。

（リーディング中）

Eさん　具体的にはどういうことなんですか？

存在　「男性に対しての見方」の中で、本人が「階層をつける」「順位をつける見方」が、過去においてですが、それがあった…。

強くあったときがあり、その影響で本人の中で、出した波動を本人が受け、チャレンジとして別の場所にその象徴を「体験として今、本人の中でもっている」という状態にあります。

Eさん　…。

存在　ということは、意識的・無意識的、どちらにおいても本人の「選ぶ」という「意識の強さ」がそこにあったときがあります。

本人の中で「選択をする」ということが悪いことではありませんが、それが「相手を傷つける見方」にエネルギーが入っていた場合、それは「自分に返ってくるという体験を選ぶ」こともできます。

理解できますか？

Eさん　はい。

今の話を聞いていると、彼女の中というか、観念や考え方を変えることで「そのチャレンジを終わりにしてもいい」というように思えるんですけども…そのために、なにか周囲の人間がとれる行動というのは、ありますか？

存在　本人の中において「自分が嫌いな人」「自分が苦手なエネルギー」「自分が行きたくない場所」「自分が避けていたもの」、そのすべてを本人が自分の中に入れたときに…。

（リーディング中）

…今の状態をとる必要がなくなる可能性があります。

Eさん　「自分の中に入れる」ということは具体的にはどういうことでしょうか？

存在　「実行する」ということです。

Eさん　つまり、「階層をつけずに物事や人を見るようにする」といったようなことでしょうか？

存在　はい。

特にあなたのお母さんだけが、それをやって「悪い」ということではありません。そのときの彼女の都合があった中での選択なので、「これが悪いこと」ということを言っているのではありません。

本人の中で「そのチャレンジをしたくてやっている」というところがあります。それは本人のハイヤーセルフもよく知っています。

なので、今あなた自身ができることとすれば、今聞いた情報をもって彼女に接する中で、今指摘を受けた部分で「本人が行動をとっている」ところが見えた場合に、そこを少し修正できる。

もしくは、「こういう見方もあるのかな」という部分をあなたの意識の中で「相手に送る」ということもできます。

実際に「言葉をかける」ということを通して、「相手に伝える」ということをしても問題はありません。

Eさん　わかりました。

私の中にも、母のような行動がゼロではない気がします。なので…。

存在　あなたは十分似ています。

Eさん　はい…。

存在　なので、あなたはそれが特に気になり、それを「解決する質問を選んでいる」にすぎません。これはあなた自身の課題でもあります。

Eさん　はい…わかりました。

ありがとうございます。

存在　次の方どうぞ。

◆　ひとつである、を知る地球　◆

Mさん　Mです、よろしくお願いします。

まず、前里光秀さんを通して今お話をさせていただいている方は、どういった次元からお話をしていらっしゃいますか？

それから質問したいです。

存在　私たちの惑星というのは「第６密度」という場所にあります。

Ｍさん　はい。

存在　わかりますか？

Ｍさん　「第６密度」とは、私は詳しくはわからないんですが…どういった存在でいらっしゃるんですか？

存在　地球の今の年代から数えて「７００年後の存在」です。

Ｍさん　なんてお呼びすればよろしいでしょうか？

存在　あなたの好きなように呼んでください。

私たちの星は「プレーン星」といいます。

Ｍさん　「プレーン星」ですか…。

では質問をさせてください。

そちらの密度から見た地球・人類は「今どういった段階」で、「これから学んでいくこと」はどんなことなのか、「重要なもの」はいっ

たいどういったものなのか、そしてその人類・地球は「どういったあり方であるのがいいのか」ということを教えてください。

存在　……。

（リーディング中）

存在　今の状態、これまでの惑星の状態というのは、同じ状態…どの国においてもあまり変化のない…違いのない状態できています。

あなた方の時間でいう2年前、そしてこの今の地点からいう、3年後のエネルギーまでの間において、そのエネルギーというのが階層ごとに分かれていきます。

私たちのチャネルというものも、あなた方の惑星には1人ではありません。いろんな場所でチャネルを通してメッセージを伝えています。

一同　おぉ…。

存在　もちろん、今目の前にいる方すべてのハイヤーセルフを通して、あなた方にも伝えています。

それは私たちの存在だけではなくて、いろんな惑星の存在からのメッセージを受けています。その理由として、私たちが伝えているのが1つあります。

それは「ひとつ」だということを常に伝えています。

「ひとつ」ということを知っている状態から、「ひとつではない」というあり方をとってきたというのが、これまでの惑星のあり方です…。

（リーディング中）

…その「ひとつという状態を知る、という場所」にいます。

Mさん はい。

存在 先ほど「階層に分かれる」という話を伝えましたが、あなた自身、常に「周波数の変化」というものを大きく体験しています。

その「どちらを選ぶのか」ということが、あなたの中において「選択肢として入れることができるかどうか」、というのがあなたにおいての「遊び」であり、「チャレンジ」になります。

それをみなさんで体験している。「惑星1つで、全体の動きとして体験している」という状態にあります。

わかりますか？

Mさん そのチャレンジをするにあたって、「自分が選びたいものを選べばいい」というのは、たとえばパラレルリアリティにしても、心地よいほうを選べばいいですか？

なにかそれとも違うポイントがあれば、そこのポイントを選べばいいですか？

存在　あなた方の惑星において、今の発言というのは多くの方がしている1つの間違いでもあります。あなた方の存在というのは、「選ぶ前に常に選んでいる」ということを知っている必要があります。

Mさん　はい。

存在　「創造性」の問題…創造性のエネルギーの中において、「これから選んで進む」。その選択はありますが、行きたい部分は常にその中に「着地点」をおいて、常に自分の中で判断をし、選択をしながら動いています。

なので、あなたが「やりたい」「ここに行きたい」という場所を見つけたときには常に、常にすべての方がそうですが、「すでに存在している」「常にその場所にいる」というのとあまり定義は変わりないです。

しかし、あなた方の世界において、この地球を「制限がある場所」に今している段階において、あまり「表面、表で見て変わっていないようにみえる」という選択をとり、そういう場所を、そういうエネルギーを体験しているにすぎません。

ということは、あなた方が「選ぶ前にすでに選んでその場所にいる」ということを知って動くということは、目の前がなんであれ、あなたの中に「思いがあるということを常に知っている状態」で、「変わっていくものを待つ」…。

「待つ」というよりも、常にそこに近づいていくことを、気持ちの中で、満タンな気持ちの中で、常に感情を上げながら、そこに向かうだけにすぎません。

Mさん　…。

存在　わかりますか？

Mさん　はい。

では今地球はどの密度にあるんですか？

存在　今、「ひとつ」を全体で体験している地球というのは「第４密度」という場所に存在しています。それ以降で動いていく場所というのは、１人ひとりが選択で行うことなので、今は決まっていません。

Mさん　はい。それはいつ決まるんですか？

存在　……。

（リーディング中）

存在　その「移行する階層においての選択」というのは、すでに決めている人もいます。

「最後の地点」というのもありますが、本人の中で決めることができれば、その地点に行く前に選択をし、「そこに行く」という、「移行する」という取り決めをすることができます。

「1人ひとりのもっている時間軸の中で選択をする」ということです。まわりと自分がひとつで、「必ず同じ地点で選択をする」というたぐいのものではありません。

その上において重要なことがあります。

Mさん　はい。

存在　その選択をすることで、「自分が行きたい場所に行けるかどうか」ということではなくて、「その前に常に決めている」という前提に立った上での、「自分のやりたいことに向かう行動」という計画が必要になってきます。

Mさん　…。

（長い沈黙）

すいません、質問を終わります。ありがとうございました。

存在　はい。

◆　距離をとっている人を、癒す　◆

Tさん　Tと申します、よろしくお願いします。

体の痛みについてお尋ねします。今、私の左後頭部から首、あと左肩に対してかなり長い間痛みがあります。頚椎捻挫もしているのですが、それだけではないような気がします。

その原因と、この痛みをとるにはどうしたらいいでしょうか？

それを教えてください。

存在　……。

（長い沈黙）

一同　（静まり返る）

存在　…今あなたをヒーリングしたのはわかりますか？

Tさん　（涙ぐんで）…はい。

一番痛かったところの強張りがかなり楽になりました。

存在　ヒーリングの効果というのは、あなた方の惑星の制限において見る場合に、時間が経過する中で、その「ヒーリングのエネルギーというものを受け入れる」という用意をしていく。

結果的に時間がかかっていくという部分があります。あなたの中で今受け入れているエネルギーを、「もっと受け入れてもいい」という選択をしていった場合に、そのエネルギーをもっと強く感じることができます。

Tさん　はい。

存在　他に質問はありますか？

Tさん　このエネルギーをもっと自分の中に受け入れるということを、自分に許可をするということですか？

存在　はい。

Tさん　それをすることで、この部分だけではなくて、他の痛みもとれていくということでしょうか？

存在　それはあなたの選択によります。

Tさん　私が体中の痛いところがある場合、「このエネルギーを自分の中で拡大する」ということを許可することで、自分がそれを決めればいいということですか？

存在　「決める」ということはどういうことですか？

Tさん　「決断する」「許可する」「受け入れる」ということです。

これでよろしいでしょうか？

存在　1つ方法があります。

Tさん　はい。

存在　「決める」ということを体の中に、潜在意識の中にわかりやすく伝える場合、「それを近くにいる人に施す」という行為が、あなたの潜在意識の中に深く情報をおろすことの手助けになります。

Tさん　では私が他の方をヒーリングするということでしょうか？

存在　はい。

Tさん　はい、わかりました。

この原因は知る必要はありませんか？

存在　あなたは知っていますね？

Tさん　…。

存在　家族の問題です。

Tさん　…。

存在　あなた自身が知っている答えを、わからない前提として質問することが、「もっていたい」という自分の中の決断につながっている部分があります。

理解できますか？

Tさん　はい。母の問題でしょうか？

存在　……。

（リーディング中）

存在　あなた自身が「人から距離をとる」「人間関係を距離をとる」という状態を維持している、その原因になる体験というものが、幼少期のある地点において発生したということはわかりますか？

Tさん　今、記憶にはありませんので教えてください。

存在　家族の中でぶつかった、家族の中で自分が「イヤだ」と思う行動、そういう関係があった。

Tさん　あっ、えっと…兄との関係のことでしょうか？

存在　どう思いますか？

Tさん　兄とはそういう関係にありました…。

いつも暴力を振るわれていたので…近づかないように距離をおいていました。怖かったので…。

存在　その体験において、すべての人間関係に向かう際に、同じ観念をもって距離をとるということをする必要はないはずです。

Tさん　はい。

存在　「そのことをやめる」という決意ができたときに、「不都合な体験」ということをする必要がなくなってきます。

Tさん　「不都合な体験」というのは…。

存在　「病気というあり方」です。

Tさん　はい…。

そこがネックで痛みとか病気というものを、自分でチャレンジとしてつくっていたということでしょうか？

存在　もちろん、チャレンジとしてすべての人が選択をします。

がしかし、あなたの場合は自分自身がそれを「忘れる」ことにおいて、「損をする」という考え方があります。「まわりに対しての表現をしている」ということです。

Tさん　はい、わかります。

存在　問題の原因になっている人に対して、自分自身がヒーリングをするということが一番の近道でもあります。

Tさん　ということは兄に対して、兄は耳が聞こえないのですが、それに対してヒーリングをするということでしょうか？

存在　はい。

Tさん　兄はそういうことを一切受け付けない人間なのですが…なにも言わずにただ側にいて、その「ヒーリングのエネルギーを送る」ということでもよろしいでしょうか？

存在　はい。

私たちがあなたにヒーリングをした際に、近くにいるわけではなくて、遠くにいる中でテレパシーとしてエネルギーを送っているにす

ぎません。

Tさん　はい、それは感じます。ということは、今ここにいる状況でも兄に送れるということでしょうか？

存在　はい。

Tさん　わかりました、早速トライしてみます。

ありがとうございました。

◆　シンプルに、思う行動をとること　◆

Bさん　Bです、よろしくお願い致します。

私も体のことでお聞きしたいです。

「体の痛み・冷え」、それから最近、極端に出てきた「アレルギーに関してのメカニズム」と、「どうしたら手放せるか」ということがわかれば教えてください。

存在　アレルギーに関しては、細胞と臓器との反発によることに原因があり、そういうアレルギーというものを体験するようになっています。ということはその象徴として、「人間関係」ということに原因がある場合があります。

そしてその世の中の人間関係の中に自分をおいているときに、「自分自身が思い描いている状態と違う」という認識がある場合も同じ現象に当てはまります。

「自分自身が望んだ世界にいる状態にいる」ということがある場合に、「まわりとの人間関係」ということがなくなります。

あくまでもその人間関係というのが、誰かとのエネルギーの交換ではなくて、体を使った交換ではなくて、「常にテレパシーを通して人間関係を築いている」ということです。

「自分自身の満足をしている、望んでいる場所にいる」「いない」というものに関しての自分の感情の表現として、「今いる場所がもしかすると、自分が違うのでは」という認識をもっている場合に、あなた自身の癖でそれを出しているという可能性もあります。

Bさん　…「冷え」とか「痛み」も関連性はありますか？

存在　「痛み」に関しては関連があります。「冷え」はまた原因というものが別にあります。

Bさん　原因はなんでしょうか？

存在　……。

（リーディング中）

これはすべての人に当てはまる現象ではなくて、あなた個人の問題としての現象の説明をしますと、「冷え」を体験しているときに「自分の中で出てくる感情に従って動けるのか」。

要は「暖かい場所に行く」「暖かいものを自分の中にエネルギーとして入れる」という行為があってはじめて、その問題をクリアすることができます。

その行為と同じように自分自身で体験している状態を変える際に、「すぐに動けるかどうか」、もしくはその「動いている中で、どういう感情を入れていくのか」というチャレンジを自分の中に見せる場合、そのチャレンジをうまくできないなにかの不都合があり、「間になにか障害があるようなエネルギーを入れる」場合に、その「冷え」という体験をする方もいます。

単純さの中に、複雑さの中にその単純さ、「シンプルに望んでいるところにそのまま行く」というシンプルな行動、思いを入れていく。

要は「時間がかからない状態」を入れていくときに、「冷え」という現象がその状態であればなくなっていきます。

Bさん 人間関係で一番…今自分の中にあるパートナーシップなんですけれども、答えが見つからなくなってしまったというか…。

具体的にいうと、〇〇〇〇さんとの関係性を絶ってしまってもよろしいでしょうか？

それは私にとって有効な…。

存在　人間関係について今説明したように、「自分自身が思うことをそのまま行動できるかどうか」「自分自身がそのようにしたいと思ったときにすぐに動きがとれるかどうか」という象徴としての「冷え」という説明があったということは理解できますか？

Bさん　はい。

存在　それから来た場合、自分自身の中でその人間関係を「継続する」、もしくは「終わらせる」という選択の1つも、その「冷え」に関連しているということです。

「シンプルに自分自身が思う行動をとれる」ということが、「1つ間にある障害を外す」ということでもあります。その行動を入れていく際に、「冷え」というものを体験する必要がなくなっていきます。

その象徴とは別で、血流の流れの速度の問題というものがあります。その速度の問題というのは、シンプルさの象徴として「スピードを調節する」ということを、人間の体というのは体験するようになっています。

Bさん　結果を急ぎするということですか？

存在　結果を急ぎすぎるということではなくて、時間をかけすぎているということです。

Bさん　あ、逆ですね。

存在　「自分の中でのスピード」と「表で見ている現象の中でのスピード」のズレがあると、同じように「冷え」というものを体験する方も

います。

そのシンプルな流れ、自分の体の中にある流れと、見ている現象が合致しない場合、なにかの現象でもって「自分の心に届ける」という行為をとります。

今の話でいうと「決断が遅い」という、「自分の中で感じた部分をそのまま反映として出せない」という部分が、「障害を入れる」ということにつながっています。

Bさん 自分の中では「かなり無理して決断して、行動してしまった」という思いがあるんですけども、「もう少しゆっくりと進んでいきたいな」という気持ちもあります。

存在 あなたの中で「無理をする」、その中で「自分自身のペースで選択をしているということに問題がある」ということではありません。「自分自身の中で感じているスピード」と「表で見るスピード」のズレということです。

なので「悪い」ということではありませんが、「あなた自身が望んでいるスピードよりは遅い」ということになります。

結果的に、です。

Bさん はい。

もう1つ具体的に聞きたいのですが、本の出版に関して、結果がなかなか前に進まないのは、今のことと関係していますよね？

存在　同じ現象ですね。

Bさん　そうですね。

そうするともっと早く、具体的に話を進めていきたいときになにをしたらいいでしょうか？

存在　あなた自身が歩いている際に、急ぐ場合はどうしますか？

Bさん　急ぐ際に…走るということですか？

存在　自分の中で「急ぐ」「早く目標としている地点に立ちたい」と思う場合、まずはまわりや環境ではなくて、「自分の中に原因がある」ということを理解する必要があります。

Bさん　はい。

存在　自分の中で「行くスピードを上げる」と決めたときに、「自分がスタートとなって、まわりに対して情報・メッセージを発信する」ということが必要になってくるということがわかります。

そのことを単純にご自身で「判断をする」「選択をしていく」中で、まわりのスピードというのは簡単に早く変わっていきます。

今のスピードが「遅い」「速い」というものは、自分の中にある選択のスピードを、自分の意図で遅くしているということにすぎません。

Bさん　はい。

存在　常に自分の頭の中では、人間の頭の中では想像もできないようなスピードで変化を体験しています。なので、自分の中で「変化が遅い」と感じるとき、「速くする」ということも理解している必要があります。

そして、今の伝えた情報を理解する…「常に変化をしている」ということを理解していることに、「自分自身の中で変化というものがあるということを理解している」ということだけで、「自分自身の現実のまわりに対しての変化のスピードを上げる」ということの手伝いになります。

Bさん　はい。

もう1つお聞きしたいです。

ずっと宝石の仕事をしてきているんですけども、宝石が本来、人間のものに、物質としてもたらされた目的というのを教えてもらえますか？

存在　……。

（リーディング中）

存在　先ほどお話をした「意識の圧縮」と同じ目的があります。「圧縮・制限の中においても、そのような輝きをもつことができる」という

象徴でもあります。

パイロットの例で出しましたが、その限られた空間の中においても、「自分自身の動きを拡大することができる」というメッセージを発しているものでもあります。

ただし、「宝石のみがその役割を担っている」というわけではありません。宝石を通して誰かに届けるときに、そのメッセージも届けているということになります。

結果的にあなた自身が届ける際に、その関わる人に対して「動けるというメッセージを届ける役割」をもっているということにすぎません。

Bさん

…最後に、今後私ができる限り、いろいろな方の意識が開放されるというか、上昇していくために少しでもお手伝いができればと思うんですけども、そのためにまずなにをしたらよろしいでしょうか？

存在

あなた自身の中で理解が届いていない部分として、「まわりから見たあなたのエネルギー」というのはスピードがあります。

あなた自身がそのスピードに気づき、そのエネルギーをシンプルに表現として出すことができるようになるだけで、まわりの方はその「シンプルなスピード」ということを理解するようになっていきます。

それが宝石に関わる仕事のみではなくて、普段の行動の中、「メッセージを誰かに届ける」というのは、口・行動のみではなくて、「あなた自身のあり方」がまわりの関係する人すべてに、「その状態をサポートする」ということにつながっています。

Bさん　…。

存在　要するに、「あなた自身のスピードもそのまんま表に出す」ということができれば、まわりに対しての次元を上げる、今の「２０１２年という問題」に関してもサポートするということにつながっています。

あなた自身の中でその決意はすでにされています。その中であなた自身は今行動しているはずです。

そのことをそのまま、あなた自身が「障害をはさむことなく動きをとるということができる」ときに、まわりに対してスピードが速い…創造性をもっている…「動いてもいい」というエネルギーをまわりに伝えることができます。

Bさん　ありがとうございました。

一真　はい。では1回休憩しましょう。

ありがとうございました。

一同　ありがとうございました。

一同　ありがとうございました。

第２部

ＳＡＮとの邂逅

２０１１年１２月３０日撮影

《登場人物》

前里　：前里 光秀（ＳＡＮを呼び出したフルトランスチャネラー）
存在　：ＳＡＮ（本書では、まだ名前はない。前里の７００年後の未来世である宇宙存在）
ゆきぃ：川満 由希夫（前里の幼なじみである前里光秀研究所トレーナー）
一真　：和田 一真（スピリチュアル活動のはじまりから共にする前里光秀研究所トレーナー）

◆ 準備と導入 ◆

前里　終わったら何時間経ったか教えてもらってもいい？
俺が目を開けたりしたときにでも。

わからないから。

一真　はい。

ゆきぃ　長くても１５分。

一真　そうですね。

ゆきぃ　びっくりしたんじゃない？

息が止まっているのかと思って「倒れたらどうしよう」と思った……「フッ！」ってなっているときに。

前里　死ぬことはないでしょ。

ゆきぃ　「違う人」って感じがした。

一真　「違う人が入っている」とは思いました。

ゆきぃ　「体が合わせられないのか」みたいな、そういうことをやっているのかと思った。

手もなんか変な動きをしていたし、首も傾げて。

呼吸もやたら「スゥー…」って、昨日とは違っていて、長く吸って長く吐いて「ハァァー…」って。

なにか馴染めないのかのように。

前里　楽しみだな。

ゆきぃ　目を開けた状態で「もうかわっています」みたいな感じで全然雰囲気が違うよね。

もしあれがそうだとしたら、目を開けて「どうぞ」って言われたら…もう「ポカーン」ってするよね、マジで(笑)

比嘉　「誰？」みたいな感じで(笑)

ゆきぃ　そう、いやぁ最初は本当にびっくりした…。

前里　いや、俺もびっくりしたな…

「どこかな…？」と思ってね。

ゆきぃ　どこに行って来たわけ？

その記憶はないわけ？

前里　いや、どこに行って来たって…だっていつもと一緒…。

ゆきぃ　なんかわからないけど、そういうの。
「戻ってきたらだいぶ経ってた」…？
久しぶりっていうのもそのまま？

前里　昨日・今日、いつでものような…。

ゆきぃ　いつでものような感覚…。

前里　だけどそれがより強かったから、「随分離れてたのかな」と思ってね。
なんか…わかる？
タイムスリップした気分って。

ゆきぃ　わからないけど(笑)

前里　なにか本当に７０～８０歳だったのが、こうやって戻ってきて、あの楽しかったときに戻ったような…。
なにかみんなが愛しく思えたからね。
普段、別に憎いわけじゃないけど(笑)

一真　楽しみの感じ…。

１０分間のその、「待っているときの楽しみの感じを体験できた」というのは嬉しいことですよね。

ゆきぃ　（無呼吸症候群のような表現をしている）

前里　無呼吸症候群？

ゆきぃ　いや、でも本当にそんな感じだったから…。

前里　いや、そういう姿勢じゃならないから(笑)

毎回々々、向こうが速くなってきているから「来た」って言えそうだったら言うからさ。

次は大丈夫だよ。

３分くらいかな…そんなにかからないかも。

ゆきぃ　３分くらい経ったら話しかけていいわけ？

前里　うん。

質問、大丈夫？

一真　大丈夫です。

前里　じゃあ名前と、終わったら「何時間経った」と時間を教えて。
そうだな…1時間くらい…。
長くても…1時間経ったら止めようか。
区切りのいいところで。

一真　はい。

前里　では、よろしくお願いします。

一同　よろしくお願いします。
（各自、位置について場が整う）

前里　（目を閉じて深呼吸をはじめる）
（途中で呼吸が止む）
（長い沈黙のあと、再びゆっくりと深呼吸をはじめる）

（呼吸がどんどん深くなっていき、ダースベイダーのような機械音の混じったような呼吸音が会場全体にこだまする。一同は圧倒されるようにじっと見守る）

（体に慣れていないのか、時折苦しそうな、唸るような音が聞こえる）

（約３分間ほど、この導入呼吸が続く）

（すでに、「存在」と入れ替わっているようだ）

存在　「フゥゥゥ……ハァァァ……」

ゆきぃ　質問してもいいですか？

存在　……。

（呼吸を繰り返す）

一同　……。

（じっと見守る）

存在　…シェアァァ……！

（息を吐きながら「share」（＝共有する）と、言葉を絞り出す）

一同　……。

存在　…シェアァァ！

一同　……。

存在　シェアァァ……。

一同　……。

存在　シェアァァ…。

◆　チャネルに前里光秀を選んだ理由　◆

ゆきぃ　質問してもいいですか？

存在　…はい……。

（絞り出すように言葉を出す）

ゆきぃ　前里光秀研究所の川満由希夫です。

存在　はい…。

一真　和田一真といいます。

一真　お会いできて嬉しいです。

一同　（笑）

存在　……。

（呼吸を繰り返す）

一真　大丈夫ですか？

存在　……。

ゆきぃ　質問してもいいですか？

存在　……。

ゆきぃ　では川満由希夫から質問します。

まず、なぜチャネルに前里光秀を選んだのですか？

存在　……。

（呼吸を繰り返すだけ）

ゆきぃ　川満由希夫が質問します。

なぜチャネルに前里光秀を選んだのですか？

存在　……。

一同　……。

（存在の呼吸をじっと見守る）

存在　…どうぞ。

ゆきぃ　川満由希夫が質問します。

なぜ、チャネルに前里光秀を選んだのですか？

存在　……。

（長い沈黙。そして呼吸を繰り返す）

ゆきぃ　もう一度質問します。

なぜ、チャネルに前里光秀を選んだのですか？

存在　…名前を教えてください……。

ゆきぃ　川満由希夫です。

存在　…はい……。

ゆきぃ　なぜチャネルに前里光秀を選んだのですか？

存在　私たちの惑星の中にはいろんな役割をもっている方がいます。

…その役割を生まれる前に設定している中で、チャネルの前里というのは私たちの「７００年前の存在」になります。

一真　前里を設定した理由として、なにか前里自身に特徴があるということですか？

存在　…名前を教えてください。

一真　はい。

和田一真といいます。

存在　はい。

一真　チャネルに前里を選んだ理由として、前里になにか特徴とかがあって、前里を選んだということがありますか？

存在　…前里自身の選択です。

一真　では、「前里自身がそれを好んで設定をしてきている」

誰でも設定をした人であれば、それが可能ということですか？

存在　はい…。

一真　前里がフルトランスになったのが１１月５日。
そのタイミングというのはなにか意味がありますか？

存在　…前里自身の設定の中で、７００年前に……「７００年前にする」という設定をしています。
その設定・選択の中にはあなた方も含まれています。
あなた方が一緒にいる際にその選択をし、合意を得て、その結果…この日に選択を実行することになっただけです。
それに特別な意味というのは、「本人が設定した」ということが意味をなすものとし、それ以外の意味はありません。
「本人の好み」であり、「あなた方全員の合意である」ということだけが残っているだけです。

一真　前里自身の体に、なにかチャネリングをしているときに影響がありますか？
少し呼吸が苦しそうに見えるんですけれど。

存在　前里自身の体の設定の中にそれを認知できる……それを認定できる…許容できる範囲での設定が入っており、それは本人の肉体の中

で負担があるということではありません。

ただし、１時間を越える仕事の中で行うことには無理が入ってくる可能性があります。

それを本人が設定しています。

一真　わかりました。

ありがとうございます。

存在　はい。

◆　チャネリング能力を上げる方法　◆

ゆきぃ　では川満由希夫が質問します。

「チャネリング能力」や「透視能力」を上げる方法を教えてください。

存在　あなた方は前里から、そのやり方を聞いたことはありませんか？

ゆきぃ　あります。

存在　彼の口を通して伝えていることをするだけで、今以上にスピードを上げることができます。

もちろんそれ以外のやり方もあり、本人たちの設定によりそれは可能となります。

私たちが存在する「第６密度」からあなた方の惑星を見ていると、少し制限があるように映ります。

しかし、「本物の制限ではない」ということはわかっていますか？

一真　はい。

存在　…私たちの観測によると、あなた方の惑星の中には「すぐにできない」「すぐにその世界・パラレルリアリティに移行できない」「そのステージを自分の中に移すことができない」という観念を多くもっています。

私たちの惑星では、あなた方がシェアをしてくれることに心から感謝しています。

あなた方のメッセージを受けとり、そのメッセージに反応するかたちで私たちはコンタクトをとることが許されています。

まず、そのことをあなた方全員に伝えます。

一真　ありがとうございます。

であれば、次に伝えていただけることでなにかあったらお願いします。

存在　あなた方自身…「多次元の存在である」ということは理解していますか？

一真　はい。

存在　あなた自身、今……今…前里自身とチューニングを行っています。

一真　……。

存在　……。

一同　……。

存在　どうぞ！

◆　シドニー上空に現れたＵＦＯ　◆

ゆきぃ　はい。

では、川満由希夫が質問します。

存在　シェア！

ゆきぃ　はい。

このワーク期間中にＵＦＯを呼んで、それをみんなで見ることはできませんか？

存在　目的は？

一真　「目で認識したい」です。

存在　……。

ゆきぃ　あとは参加者の方にも「そういう体験をプレゼントしたい」という思いもあります。

存在　あなた方の仲間である…前里自身が今、宇宙船の中で我々と一緒にいます。

ゆきぃ　おぉ…。

一真　今はどのような状態なんですか？

存在　シドニーの上空です。

一真　はい。

それは「体外離脱専門プログラム」のときのＵＦＯということですね？

存在　はい。

一真　そこで前里はなにをしていますか？

存在　チューニングをしています。

一真　それは、チャネルとの接続がうまくいくようにチューニングをしているという…。

存在　あなた方に対して、です。

一真　あぁ、なるほど…。

ゆきぃ　なぜシドニーなんですか？

存在　私たちはある合意のもと、ある地点にチューニングをするように約束されています。

前里自身の体…周波数があなた方とは違います。

一真　自分たちにチューニングをしてくれているというのは、自分たちが会話をしやすいようにですか？

存在　イエス。

一真　はい。

とても頭が冴えている感覚があります。

存在　イエス！

◆　２０年後の未来と７００年後の未来　◆

一真　えっと…自分、和田一真の「２０年後の自分」と話をすることはできますか？

存在　目的は？

一真　そこに…話をして今向かっている…自分のやろうとしている方向に、そこに行くために、それをもし１０年後にできるのであれば、それを早く実現したいというのがあります。

存在　７００年……。

一真　はい？

存在　７００年後の…。

一真　はい。

存在　あなた自身も、私たちは側に常に一緒にいます。

一真　はい。

存在　「本当に２０年後でいいのか？」と聞いています。

直接…直接のコンタクトは許されておりません。

一真　はい。

自分が「２０年後」と言ったのは、この人生の中で結果を出す…今の前里光秀研究所という中で、「もっともっと、いろんなことをやりたい」という思いがあって、まず「２０年後」と言ったんですけど。

それはダメということですか？

存在　前里自身の目的があります。

一真　はい。

ゆきぃ　聞いてもいいですか？

存在　……。

ゆきぃ　……。

存在　あなた……私は前里の…７００年後です。

ゆきぃ　僕は川満由希夫ですけど、７００年後の僕も近くにいるんですか？

存在　イエス。

ゆきぃ　そうなんだ…（笑）

一真　すごい呼吸の仕方をしますね！

存在　ありがとう。

一同　（笑）

一真　はい。

ではもう1回質問してもいいですか？

存在　……。

一真　もう1回質問して大丈夫ですか？

存在　はい。

一真　自分の能力…たとえば「物を書くことが好き」、たとえば「細かいものを見るのが得意」、たとえば「言葉を逆さから読める」。こうい

う能力を最大限に活かすために、今やっているのが塾の仕事です。塾で人に教える。

これからワークショップで「人に教える」、これから「本を書く」。そういうことを考えているんですけれども、もっと自分の設定の中に入れていることがあれば教えてください。

存在　（「フゥゥゥーー！…フゥーー！！」と激しく呼吸を繰り返す）

あなた自身…。

一真　はい。

存在　私たちが乗っている…宇宙船のパイロットです。

一真　はい。

ゆきぃ　えぇ！？

一真　それは７００年後の話ですね？

存在　はい。

一真　「今、この人生においてパイロットをやるつもりはない」というのがあって…。

存在　あなたは別次元でもパイロットをやっています。

一真　パイロット？

方向音痴なんですけどね（笑）

一同　（笑）

一真　パイロット…うーん……。

存在　あなた自身…。

一真　はい。

存在　前里をサポートしています。

一真　はい。

存在　ありがとう！

一同　（爆笑）

◆　オープンコンタクトが実現する日　◆

一真　こちらこそありがとうございます。

では、今サポートをしている…もっとサポートをするために、自分がやったほうがいいことはありますか？

存在　……。

一同　……。

存在　あなた方はいつも…その惑星に対しての責任を負っています。

一真　はい。

存在　大きな…２年…２年後……。

（激しく呼吸を繰り返す）

一真　２年後…はい。

存在　あなた方の時間でいう２年後に…。

一真　はい。

存在　おおやけの前で…。

一真　はい。

存在　コンタクトを…。

一真　はい。

存在　拡大します。

一真　はい。

ゆきぃ　拡大します…？

存在　前里…。

一真　はい。

存在　肉体に…。

一真　はい。

存在　支障が出る可能生…。

一真　今の話ですか？

存在　はい。

一真　え、今！？

存在　はい。

ゆきぃ　ではもう終わりで大丈夫です。

ありがとうございました。

一同　ありがとうございました。

存在　ありがとう……！

…シェア！

（「スゥー…ッ！」と激しい呼吸を繰り返す）

（呼吸が静かになり、コンタクトが途絶える）

◆　フルトランスチャネリング終了後　◆

一同　（全員で静かに見守る）

前里　（静止していた前里が、手をピクピクさせる）

ゆきぃ　１７分くらいからスタートして、しゃべりはじめたのは３０分前だから…３０分間くらいはちょうどしゃべっている。

一真　３０分くらいしゃべっていました。

前里　……。

一真　大丈夫ですか？

前里　…。

ゆきぃ　お疲れ様です。

一同　（大きな拍手）

一真　大丈夫ですか？

前里　うん、大丈夫…。

ゆきぃ　だいたい、４０分くらい前から目を閉じはじめて…。

一真　すごかったですよ！

ゆきぃ　すごかった(笑)

前里　あぁ…すごいよ、しびれが…。

一真　すごかったですねぇ…。

ゆきぃ　ビデオ見たら？

一真　大丈夫ですか？

前里　うん…大丈夫。

一真　いやぁ…。

ビデオつけましょうか？

ゆきぃ　うん。

ビデオ見たらびっくりすると思うよ(笑)

一真　すごかったですよ！

本当にもう…。

ゆきぃ　（笑）

前里　（フラフラする）

一真　横になってください。
飲み物どうぞ。

前里　何分？
どのくらい？

一真　３５分くらいです。

ゆきぃ　いろんなことを聞けたよ。

前里　あぁ、そう…質問できた？

一真　すごかったですよ！
本当に！！

ゆきぃ　（笑）

一真　もう用意して…参加者の方も呼んでいいですか？

前里　俺は大丈夫だよ。

ゆきぃ　向こうが「これ以上続けたら前里の体に支障が出る可能性があります」と言ってきて、「じゃあ終わりでいいです」って…。

前里　理由がひどいね(笑)

（まだフラフラしている）

一真　座ってください。

ゆきぃ　倒れたら困るんですけど(笑)

一真　どこがしびれるんですか？

前里　いや、全身。

一真　全身…。

前里　もう…今もしびれているし…。

ゆきぃ　聞いたらびっくりすると思うよ、笑うし…。

一真　いや、もう…なんにも言わないで、今は。
見たらびっくりすると思いますよ(笑)

前里　じゃあ参加者の方も呼んだら？

ゆきぃ　じゃあ、セッティング…。

前里　セッティングしたら時間ないでしょ。
今、何時？

一真　今、ちょうど１０時くらいになります。

ゆきぃ　立たないでよ？　マジで、怖いから。
今までと全然違うよ。まったく別物。

笑う…なんか(笑)

一真　言っていいですか？

シェア！！

（先ほどの存在のものまねをする）

一同　（爆笑）

前里　え？

一真　シェア！！

ありがとう！！

一同　（爆笑）

一真　いや、「すごい呼吸の仕方しますね」って言ったら「ありがとう！」「スゥゥゥー…ッ！」って。

ゆきぃ　なんかずっと「スゥー…ッ！」ってやってて、しゃべったあとに必ず「ありがとう！」「スゥー…ッ！」みたいな(笑)

前里　（爆笑）

一真　いやいや、もうすっごい！

これを見たらもう…。

ゆきぃ　これ見たらもう質問できないよ(笑)

前里　（爆笑）

「シェアー！」って言ってたの？

一真　「シェアも大事」とは言ってたんですけど、そのあとで気合いをしょっちゅう…「シェア！」って。

ゆきぃ　「シェア！」っていうのがシェア(共有する)なのか、ただの呼吸で「シェアァァァー！」ってやっているのかわからないけど、とにかく1発目「シェアー！」って。

一真　すごかったですよ！

本当に。

前里　そう聞こえないけどね(笑)

一真　いやぁ…もう…。

前里　笑われてる感じがして（笑）

一同　（爆笑）

前里光秀プロフィール（２０１９年3月現在）

１９７７年５月３１日、沖縄県宮古島市出身。生後１歳半で母親を亡くし、それをきっかけとして幼少期からたびたび目には見えない存在を目撃する。勉学に励んだが大学進学はせず、教育者に憧れ塾の講師となる。

２００２年１０月より、沖縄県にて小学生から大学受験までを対象とした個別指導学習塾を創設（現・株式会社 前里光秀学園。２０１８年３月、下記に述べる病院では対応できないヒーリング依頼の受け入れと事業拡大のため全８教室を閉鎖。現在は、３泊４日で学ぶ２時間スリーパー教育など開催中）。

２００７年７月、亡くなった母親に会いたい一心で参加したモンロー研究所のヘミシンクセミナー参加中に、突然、体外離脱がはじまる。３００回以上の体外離脱体験により、非物質の存在（死者や「医師団」と名乗る宇宙意識など）より宇宙のメカニズムを学ぶ。

２００８年６月より、チャネリング情報によるプログラム化されたスピリチュアル実践ワークショップ開催（『体外離脱専門プログラム』他、計２４回、約１２０日間）。

２０１０年２月より、ラジオ番組『ワクワク♪スピリッツ』放送（２０１８年３月に終了）。

２０１０年１０月、潜在意識とスピリチュアル研究の前里光秀研究所を創立（現・株式会社 前里光秀研究所）。

２０１１年１１月、宇宙意識ＳＡＮからのコンタクトをきっかけに生まれる前の約束を思い出し、異文化交流を目的としたフルトランスチャネラーとなる。

２０１６年９月、不慮の事故により自身の子どもが顔面から肩にかけて大やけどを負う。治療法としては皮膚の移植手術しかないと言われた症状であったが、体外離脱・透視・チャネリング情報を総動員することで完全に癒す。それをきっかけに、病院では対応できない病気や痛みを癒すスピリチュアルヒーラーとなる。また、それまでの創造理論をベースとしたヒーリング理論の体系化に成功し、それからはヒーラーの育成にも力を注ぐ。

２０１７年7月、一斉遠隔ヒーリング『１００人セッション』開催。その後、徐々に人数を増やしていき２０１９年2月、３６３２人参加の一斉遠隔ヒーリング『３０００人セッション』に成功。
スピリチュアルカウンセラー・体外離脱能力者・透視能力者・チャネラー・フルトランスチャネラー・ヨガ実践家・2時間スリーパー・不食実践家・投資家・教育講演家など。現在は他に、新宿区神楽坂を中心にヨガスタジオ『３３３ＹＯＧＡ』と加圧スタジオ『３３３ＧＹＭ』（合計４店舗）、食事トレーニング専門会社、沖縄にて3泊4日で学ぶ一流習慣教育『前里社長のプロデュース大作戦』、1対1のお金の教育『ダ・ヴィンチ・プログラム』などを含む5社経営の起業家でもある。趣味は、国際政治研究と芸術。「３３３」とは愛称で、「ミツさん」と読む。